

学会等報告

テレビ局キャラクター体操へ体育系大学男女新体操競技部学生が関わることの意義について

河野 未来, 小松 正子

Miku Kawano, Shoko Komatsu: The significance of the involvement of male and female rhythmic sport gymnasts in physical education university to television station character gymnastics: Bulletin of Sendai University, 49 (2) :203-209, March, 2018.

Key words: gymnastics, character, male, rhythmic gymnastics, child
キーワード: 体操, キャラクター, 男子新体操, 新体操, 子ども

I. 緒言

子どもの身体活動については、その心身への影響の重要性から日本学術会議が運動指針策定を喫緊の課題として提言し¹⁾、2012年文部科学省から「幼児期運動指針」が発表された²⁾。指針では「幼児は、様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切」とされ³⁾、幼稚園のみならず厚生労働省管轄下の保育所も含め全国に配布された^{4,5)}。

そのような状況下の2016年、体育系大学であるS大学の新体操競技部と男子新体操競技部(以下、新体操競技部と略称する)に対し、テレビ局よりキャラクター体操(NHK仙台放送局やっぺえ体操)⁶⁾への出演依頼があり、体操の普及活動に関わることになった。

やっぺえ体操は、テレビ局の人気キャラクターである“やっぺえ”と、方言を豊富に盛り込んだ歌に乗って楽しく踊る約4分間の体操で、リズム体操、バランス能力向上などの要素が組み込まれている。今回の依頼は、毎年体育の日に行われているイベント「仙台市マイタウンスポーツデー」において著者(河野)が指導

している新体操教室(未就学児から小学生高学年までをターゲットとして、音楽にのせて身体を動かす楽しさを知ってもらい、新体操競技の普及活動を行うことをねらいとしている)のなかで、やっぺえとのコラボレーションによりキャラクター体操の普及活動に協力を、と要請があったことがきっかけである。これまでも、多くのイベントで演技を行う機会を頂き、地域独自の体操を踊ることもあったが、メディアを通し生活に身近に存在するキャラクターとコラボレーションして体操を行うことは初めての試みであった。

近年、「ゆるキャラ」ブームの影響により、いたるところで新たなキャラクターを目にする。キャラクターは、アニメや漫画、ゲームといったコンテンツの重要な要素のひとつであり、顔や服装といった外見的特徴だけでなく、性格や特色などの設定、キャラクターが展開するストーリーなどといった内面的特徴という要素が組み合わせられて構成されている⁷⁾。それぞれのキャラクターの所属する自治体・観光協会・民間会社などを広報するために創作されたものでは、個々にアピールポイントを持ち合わせて

おり、老若男女が親しみをもてるような工夫が凝らされている。やっぺえおよびやっぺえ体操も、こどもからお年寄りまでに親しまれている。

また、義務教育の教育現場において関連することとして、2008年の中学校学習指導要領改訂により、保健体育の指導内容において、ダンスが男女ともに2012年から完全必修化されるなどの流れがある。学校教育におけるダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して、仲間とのコミュニケーションを豊かにし、感情をこめて踊る楽しさや喜びを味わうことのできる課題達成型の身体活動として位置づけられている⁸⁾。

本研究では、上記のような状況を鑑み、テレビ局キャラクター体操への関わりを、体育系という保健体育教員免許取得希望学生の多い大学の新体操競技部学生が、どのようにとらえたか等を検討し、今後の教育等の一助とすることとした。

II. 研究目的

本研究は、体育系大学の新体操競技部学生がテレビ局キャラクター体操に関わった経験をまず記録し、次いで質問紙調査により学生がそれをどのように受け止めているのかを振り返る。これにより、日頃、保健体育科教諭課程の学習や新体操競技選手としての活動を行っている学生が「キャラクター体操」に関わることの意義を検討し、今後活かすことを目的とする。

III. 研究方法

1. 対象

調査対象は、やっぺえ体操にかかわった仙台大学新体操競技部10名、仙台大学男子新体操競技部10名の計20名である。

2. 実施されたキャラクター体操の概要

「やっぺえ体操」は、NHK（日本放送協会：Japan Broadcasting Corporation）仙台放送局

のキャラクター「やっぺえ」をイメージキャラクターとした体操である。このキャラクターは、平成23年3月の東日本大震災後、「宮城県を元気に！」というコンセプトのもと「やっぺ（やるぞ）！」という掛け声から生まれた⁶⁾。体操では、7つの部位（頸・腕・胸・体側・腰・脚）をしっかりと動かし、どの動きも必ず前後左右、対称に行い、全身をまんべんなく動かすことができる。さらに、跳躍運動などの動的な動きや、バランスなどの静的な動きを組み合わせ、飽きることなく取り組める工夫が凝らしてある⁶⁾。

放送は、NHK総合と同Eテレにて週に各1日、午前と午後4分間行われている（週に計4回）。放送では、NHKが主催するイベントへの参加者や県内の幼児・中高生から高齢者までが学校・職場単位等で、撮影に参加している。また、やっぺえ体操普及のために、著名な、いわゆるお笑い芸人や女優、歌手などもフレーズごとに登場し、注目を集めている。

3. 活動内容

体操の準備および撮影時期は、平成28年9月23日から10月22日までの1か月間であった。仮TV撮影（リハーサル）1週間前の9月23日より練習を開始した。やっぺえ体操を知っている学生はいたが（結果で後述）、踊ることができない学生はいなかったため、公式ホームページや体操図解を確認しながら、正確に踊りを把握して、部員間で伝達する作業を実施した。練習を開始して3日目には、ほぼ体操の順序や注意点等を理解し、踊り熟せるようになった。

以下の3つを主要な行事日程として、準備をすすめていった。

- 1) 平成28年9月30日(金) 仮TV撮影(S大学新体操練習場)：撮影本番に向けて、NHK仙台放送局との撮影場所および動きの確認。

今回のTV撮影では、「新体操バージョン」にアレンジを依頼された箇所があり、その運動の確認も行った。アレンジした箇所は、以下のとおりである。

- (1) 後ろバランス：新体操の特徴である柔軟性を見てもらうため、男子は後ろ足を高く

上げ、女子は足を支持した形でバランスを行った（写真1）。



写真1 やっぺえ体操新体操バージョンのバランス

(2) ゆっくり～ゆっくり～の動き（フルバージョン2分31秒～2分41秒）：

従来の動きは、特に規定はなく、スローモーションで動くことをイメージして、運動を行っていた。そこへ、新体操競技で取り入れている横波動の動き入れ、関節を一つずつ滑らかに波のように動かす動きを取り入れることで、「ゆっくり」のイメージを、子どもたちがより具体的に理解・表現できるようにした（指導の現場では「こんにゃくの動き」という表現を使用した）。

(3) ラストポーズまでの間奏（フルバージョン3分46秒～4分）：従来の動きでは、深呼吸を行っていたが、新体操バージョンでは、運動自体が従来の体操よりも負荷が大きいので、その前に全身を揺する運動を取り入れ、筋肉の緊張を解きリラックスした状態で、深呼吸へ移行するように促した。

2) 平成28年10月10日（月） 仙台市マイタウンスポーツデー（仙台市体育館）

事前に、仙台市マイタウンスポーツデーイベントに参加申し込みを行った4歳から小学6年生への91名の幼児・児童へ、新体操の紹介・演技披露と解説、やっぺえ体操の指導、発表会を行った。既に、やっぺえ体操を踊ることのできる子どもたちが多数おり、新体操バージョンの練習と正しい動きの解説に時間をとり、指導を行った。発表会では、やっぺえも参加し、子どもたちのやる気を誘発し、リズムにのり楽しく踊ることができていた。怪我人もなく、無事にイベントを終えることができた。

3) 10月22日（土）TV撮影（仙台大学新体操練習場）

9月30日のリハーサルを経て、TV収録を行った。通して3回の撮影を行った後、新体操バージョンにアレンジした部分をフレーズ毎に撮影した。撮影はスムーズに進み、ホームページ掲載用の写真を撮影し、終了した（写真2）。



写真2 やっぺえを囲んだNHKホームページ掲載用の写真撮影

4. 事後質問紙調査

やっぺえ体操にかかわったことについての感想・評価等を把握するため、無記名質問紙調査を新体操競技部学生に対し行い（2016年12月上旬まで）、20名中20名から回答を得た（回答率100%）。質問紙の内容については、以下の11項目の設定を設け、そのうち6つを自由記述回答とした。

- (1) 保健体育科教員免許の取得希望の有無について（ありの場合、関心のある学校種別）
- (2) やっぺえ体操とかかわったことが、教員志望者にとって有意義だと考えるか。
- (3) やっぺえ体操が、未就学児等の身体活動能力向上に影響するか。
- (4) やっぺえ体操を知っていたか。
- (5) やっぺえ体操の中で印象に残った動き（自由記述）
- (6) これまで行ってきたスポーツ（自由記述）
- (7) 新体操競技歴
- (8) キャラクターと実際に体操をする中で感じたこと（自由記述）
- (9) モデルになってよかったこと・楽しかったこと（自由記述）

- (10) モデルになって大変だったこと・苦勞したこと (自由記述)
- (11) モデルになって, 何か周囲の人から反響はあったか (自由記述)

なお, 本報告での写真掲載にあたっては, 対象者より承諾を得た。

IV. 結果

対象の新体操競技部学生の特性について表1に示す。対象者数は20人で男女各10名である。在籍年次は平均2.4年で, 2~3年生が中心である。保健体育科教員免許取得希望については, 男子4名(40%), 女子5名(50%)で, どちらも約半数であった。関心のある学校種別では, 男子が小学校希望者無し, 中学校2名, 高等学校3名, 女子が小学校1名, 中学校4名, 高等学校5名であった(複数選択可)。教員免許状以外の取得予定資格には, ジュニアスポーツ指導員が3名, 健康運動実践指導者が2名, スポーツリーダーへ5名の回答があった。

新体操競技歴は, 男子平均5.7年, 女子12.7年で女子の方が長かったが, 男子も中高からの経験者が主流であった。大学からの初心者, 男子は0名, 女子1名である。過去のスポーツ

競技歴は, 男子は武道, 球技, 水泳, 陸上などと多彩であるが, 女子は体操・舞踏系(ダンス, バレエ)が多かった。

やっぺえ体操との関わりについての感想では(表2), まず, 「やっぺえ体操を知っていたか」については, 男子は8名(8割)が知っていたのに対し, 女子は2割に過ぎなかった。「やっぺえ体操とかかわったことが, 教員志望者にとって有意義と思うか」の問いに対しては, 20名全員が「有意義と思う」と回答した。「やっぺえ体操が, 未就学児等の身体活動能力向上に役立っているか」の問いに対しても, 全員が「役立っている」と答えた。

やっぺえ体操に対するより具体的な感想を男女別にみると(表3), 「印象に残った動き・ポーズ」については, 男女でほぼ同様であった。「キャラクターと体操をする中で感じたこと」については, 「やっぺえが可愛かった」が男子3名, 女子5名で, 最多であった。補足すると, この「やっぺえ体操新体操バージョン」の撮影時, やっぺえにはレオタード様衣装の着用, つけまつけ装着などの工夫がなされていた。そのほか, やっぺえと一緒に踊れて, 「うれしかった」(2名), 「楽しかった」(2名)などであった。

「やっぺえ体操のモデルになってよかったこと・楽しかったこと」で「子どもたちと一緒に

表1 キャラクター体操に関わった新体操競技部学生の特性 ()は%

	人数	在籍年次 (平均±S.D.)	保健体育教員免許 取得予定者 ^{※1}	新体操競技歴 (平均±S.D.) ^{※2}
総数	20 (100.0)	2.4±1.1	9 (45.0)	9.2±4.9
性別				
男子	10 (50.0)	2.4±1.3	4 (40.0)	5.7±1.7
女子	10 (50.0)	2.4±1.1	5 (50.0)	12.7±4.6

S.D.:標準偏差

※1 関心のある学校種別(複数選択可)

男子:小学校(0名), 中学校(2名), 高等学校(3名)

女子:小学校(1名), 中学校(4名), 高等学校(5名)

※2 これまで行ってきたスポーツ(複数回答の場合あり)

男子:柔道・バスケットボール(各3名), 水泳・陸上(各2名), 卓球・サッカー(各1名)

女子:器械体操・水泳(各3名), ダンス(2名), クラシックバレエ・陸上(各1名)

新体操部学生におけるキャラクター体操への関わり の意義

表2. キャラクター体操への関わり の意義 の評価等 ()は%

	やっぺえ体操を知っていた	やっぺえ体操と関わったことが、教員志望者にとって、有意義と思う	やっぺえ体操が、未就学児等の身体活動能力向上に役立っていると思う
総数(20名)	11 (55.0)	20 (100.0)	20 (100.0)
性別			
男(10名)	8 (80.0)	10 (100.0)	10 (100.0)
女(10名)	2 (20.0)	10 (100.0)	10 (100.0)

表3. キャラクター体操との関わり の感想等

	男子(10)
体操の中で印象に残った動き	
バランス※1	2
「宮」ポーズ※2	2
元気ポーズ※3	6
キャラクターと実際に体操をする中で感じたこと	
やっぺえが可愛かった	3
初めてやっぺえを近くで見て、一緒に踊れてうれしかった	1
可愛いキャラクターだったので皆が笑顔になっていた	0
やっぺえのおかげで楽しく踊ることができた	1
少し恥ずかしかった	2
モデルになってよかったこと・楽しかったこと	
TVで見てもらえることが嬉しい	2
周囲の人から声をかけてもらった	3
仙台大学の宣伝ができた	2
小さいころの気持ちが蘇ってきた	1
「やっぺえ体操」という体操を知ることができた	0
子どもたちと一緒に踊れたこと	2
モデルになって大変だったこと・苦労したこと	
間違えられないので緊張した	4
緊張していたが笑顔をつくること	2
恥ずかしさを表情に出さないようにしたこと	1
皆で振付を合わせることに苦労した	1
競技とは別に練習を行わなければならなかったところ	2
モデルになって、何か、周囲の人から反響はありましたか	
家族からよかったねと声掛けがあった	1
友人からTVを見たと言われた	4

※1 左右それぞれの足を後方に上げて止まる運動

※2 宮城の「宮」を体で表したポーズ

※3 最後の「決め」ポーズ

踊れたこと”が7名で最多であった。次いで、“周囲の人から声をかけてもらえた”が6名であった。「大変だったこと・苦労したこと」では、“間違えられないので緊張した”(4名)、“競技とは別に練習をおこなわなければならなかったところ”(4名)、“緊張の中で笑顔を作ること”(2名)などであった。「反響」については、“友人からTVを見たご連絡があった”が7名で最多であった。

V. 考察

今回の調査は、体育系大学の男女新体操競技部学生が、テレビ局キャラクター体操の普及に協力することで、幼児・児童の体操・運動の機会の拡充に貢献するというユニークな活動が対象となった。

体育系大学では保健体育科教員免許取得希望者が多く、本調査対象学生でも約半数が希望者であったので、学校教育における「体操」「運動」の流れをみってみる。1998年度改訂の学習指導要領では、心と身体を一体としてとらえることを重視し、それまでの「体操」領域を改め、小学校5年次以降に「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」から構成される「体づくり運動」とされた。しかし、2008年度の改訂では、運動する子とそうでない子の二極化の傾向が見られることや生活習慣の乱れが小学校低学年にも見られるとの指摘を踏まえ、「体づくり運動」領域の一層の充実が求められた。そのため、これまで小学校高学年から位置づけられていた「体づくり運動」が小学校低学年からとなるとともに、発達の段階を踏まえた新たな内容として「多様な動きをつくる運動(遊び)」が、小学校低学年及び中学年で示された⁹⁾。この「多様な動きをつくる運動(遊び)」とは、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きを総合的に身につけることをねらいとしている。「体の基本的な動きを身につける」ということには、二つの捉え方があり、一つめは、回る、這う、くぐる、運ぶなどの多様な動きを経験することによって、動きのレパートリーを増やしていくことである。二つめは、一つ一つの基本的な動きを何度か経験すること

によって、無駄な動作を少なくし、動きの質を高めていくことである¹⁰⁾。ちなみにこの「体の基本的な動きを身につける」ことは、1928年に国民保険体操として制定されたラジオ体操やみんなの体操などにも含まれている。

調査での「今回のやっぺえ体操とのかかわりが、あなたまたは教員を目指す人にとって有意義だと思うか」の問いには、100%(20名)の学生が「はい」と回答したことより、自身の教員免許取得希望の有無にかかわらず、今回のやっぺえ体操への取り組みが、教職を目指す学生に何らかの教育的効果をもたらすと感じていたことがわかった。「やっぺえ体操が、未就学児等の身体活動能力向上に役立っているか」の問いに対しても、全員が“役だっている”と答えた。前述した「幼児期の運動指針」にあるように、幼児の運動の質・量の確保も現代の課題であるので、学生全員が、多忙な中でもこのように本活動に意義を感じられていたことが確認できたのはよかった。

メディアを利用した運動支援については、その効果が高いこと^{11, 12)}が指摘されている。今後は、例えば、幼児期運動指針の「毎日60分」とやっぺえ体操(4分間)との関連や、体操の動きが、どの程度幼児・児童に求められているものを充足するかなどを考えさせることで、より深いかかわりに導いてゆくのが課題といえる。

また、小学校における運動遊びの工夫・取り組みにも長期間行うことで生じる「飽き」の問題が指摘されている¹³⁾。そのような際に、このキャラクター体操もバリエーションの一つとして有意義だと思われる。しかし本活動前に、男子の方が「やっぺえ体操」を断然多く知っていた(男子8割に対し女子1割)のはやや意外であった。要因として、男子は部員数の8割が宮城県出身ということがかかわっていると考えられる。性差より出身がご当地体操への親和性の要因かもしれず、このようなことも学生指導の参考にしたい。

その他の記述回答からも、日頃、厳しい競争的競技のなかでトレーニングしていること、専門的運動能力を有することが、子供との関わ

り、テレビ放映という社会的なかかわりにも役立ち、それを通じた社会的影響力を体得していることがうかがえ、今回の活動が、一定の教育的効果を果たしたことが確認できた。

さらに、新体操という競技特性から考えると、こうした競技スポーツを幼少期から行い、過度なトレーニングを継続している選手には、身体の均衡性が崩れている選手が少なからず見受けられる。今回行ったやっぺえ体操や体づくり運動として推奨されている体操には、左右均一性のある動きがほとんどである。簡単な運動であるが、このような体操を地道に、そして正確に継続して行うことが、競技者（学生）自身にも正しい筋肉を鍛えることや可動域の拡大に繋がるとも考えられる。

今後も、対象者の発達段階や興味関心に応じた体操・動きを選択し、組み立てていくような技能を習得することが、学生のさらなる成長に結びつくと思われた。

引用文献

- 1) 加賀谷淳子 (2009) 子どもの遊びと身体活動
日本臨床スポーツ医学会誌 17(2):188-196
- 2) 文部科学省・幼児期運動指針策定委員会「幼児期運動指針」文部科学省 (2012) http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm
- 3) 文部科学省・幼児期運動指針策定委員会「幼児期運動指針普及用パンフレット」文部科学省 (2012) http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319773.htm
- 4) 春日晃章 (2014) 幼児期運動指針の普及戦略
体育の科学 64(12): 868-872
- 5) 青木好子 (2016) 幼児教育における身体活動の意義と課題 佛教大学大学院紀要 44: 1-18
- 6) やっぺえ！たいそう HP <http://www.nhk.or.jp/sendai/yappe/>
- 7) 飯沼弘樹, 茂木龍太, 兼松祥央, 鶴田直也, 三上浩司, 近藤邦雄 (2016) 役割分担に基づくキャラクター制作支援スクラップブック 映像情報メディア学会技術報告 p103
- 8) 文部科学省: 新学習指導要領, 第2章, 各教科第7節, 保健体育 (2010)
- 9) 文部科学省: 学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」授業の考え方と進め方 (改訂版) (2012)
- 10) 文部科学省: 多様な動きをつくる運動 (遊び) パンフレット (2009) p1
- 11) 近藤良平 (2009) 幼少年期の運動 - メディアによるアプローチ 体育の科学 59(5): 312-316
- 12) 種田行男, 浜崎一良, 浦正広, 大竹杏奈, 宮崎慎也 (2014) 運動習慣形成・継続のための支援ツールとしてのデータ放送コンテンツ活用の提案
運動疫学研究 16(1):34-41
- 13) 郡山孝幸, 針生弘, 久能和夫, 金賢植, 柴田千賀子 (2016) 幼児からの運動遊び充実の重要性についての一考察～広島市幼稚園及び仙台市立富沢小学校における取り組みの事例から～ 仙台大学紀要 47(2): 67-75

(2017年11月30日受付)
(2018年1月30日受理)

